

令和7年11月18日
統計部公表

作物統計調査

令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（北陸）

令和7年産主食用米収穫量（生産者ふるい上米）は
97万300トンで前年産に比べ7万4,300トン増加の見込み

【調査結果の概要】

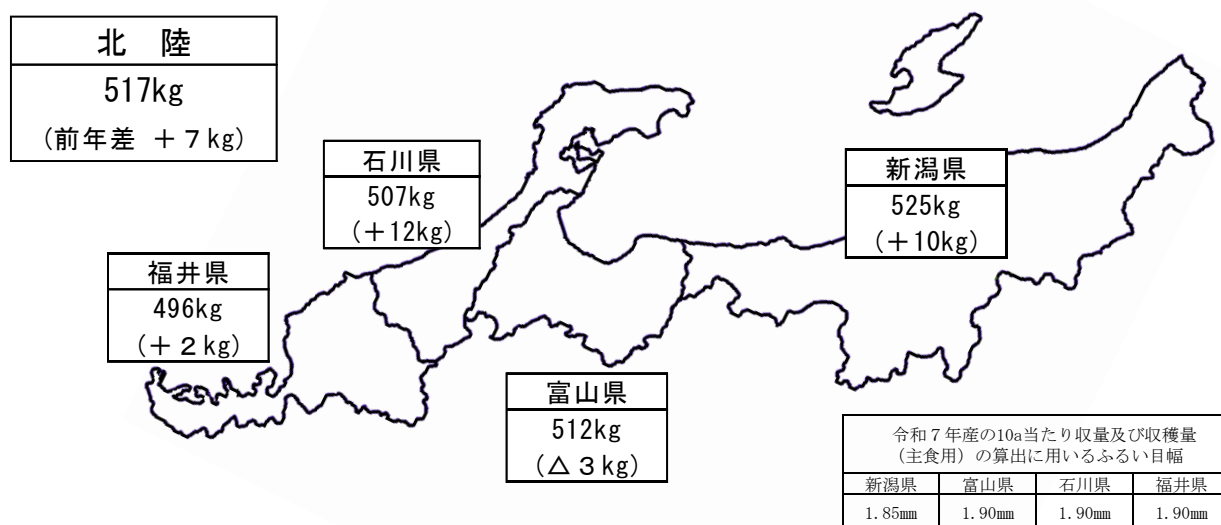
- 1 令和7年産の水稻の10月25日現在の予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））※1は97万300 tで、前年産に比べ7万4,300 t増加と見込まれる。

これは、

- ① 作付面積（主食用）が備蓄米、飼料用米等からの転換等があったため、18万7,700haで、前年産に比べ1万1,900ha増加となったことに加え、
- ② 10月25日現在における北陸の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、おおむね天候に恵まれたことから、517kgで、前年産に比べ7kg増加と見込まれるためである。

- 2 また、ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））※2は101万5,000 t（前年産に比べ7万6,200 t増加）と見込まれる。

図1 生産者が使用しているふるい目幅ベースの県別10a当たり予想収量



※1 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量。

※2 予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量。

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況単収 指数 (生産者ふるい目幅)
		10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	kg	
平成27年産	184,100	513	nc	945,000	531	nc	977,800	207,800	1,104,000	…
28	182,100	553	108	1,005,000	567	107	1,031,000	205,600	1,165,000	…
29	180,100	509	92	916,400	529	93	952,100	204,100	1,079,000	…
30	184,800	508	100	938,000	533	101	985,300	205,600	1,096,000	…
令和元	186,400	526	104	980,000	540	101	1,007,000	206,500	1,115,000	…
2	185,900	531	101	984,600	550	102	1,021,000	206,400	1,135,000	103
3	177,900	505	95	899,100	531	97	944,600	201,800	1,072,000	97
4	173,500	518	103	898,700	541	102	938,800	198,200	1,072,000	101
5	174,000	501	97	872,200	513	95	894,000	197,700	1,015,000	97
6	175,800	510	102	896,000	535	104	938,800	197,000	1,053,000	99
7 (概数値)	187,700	517	101	970,300	541	101	1,015,000	200,700	1,085,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

4 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成27年産から令和元年産まで：北陸地域で過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。

令和2年産以降：各県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。

5 収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

6 作況単収指数は、当年産に生産者が使用しているふるい目幅を基準とし、各年における前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率を算出。

7 「nc」は、計算不能であることを示している。

8 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

◎県別累年データ

水稻の年次別推移（新潟県）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況単収 指数 (生産者ふるい目幅)
		10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい上米))	10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	kg	
平成27年産	102,400	509	nc	521,200	527	nc	539,600	117,500	619,200	…
28	101,500	565	111	573,500	581	110	589,700	116,800	678,600	…
29	100,300	505	89	506,500	526	91	527,600	116,300	611,700	…
30	104,700	500	99	523,500	531	101	556,000	118,200	627,600	…
令和元	106,800	530	106	566,000	542	102	578,900	119,200	646,100	…
2	106,700	542	102	578,300	558	103	595,400	119,500	666,800	105
3	101,800	507	94	516,100	529	95	538,500	117,200	620,000	96
4	99,900	525	104	524,500	544	103	543,500	116,000	631,000	102
5	100,600	502	96	505,000	511	94	514,100	115,800	591,700	96
6	101,400	515	103	522,200	536	105	543,500	116,200	622,800	99
7 (概数値)	108,600	525	102	570,200	542	101	588,600	117,700	637,900	102

注：生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産～令和7年産は1.85mm。

なお、各県の作況単収指数(生産者ふるい目幅)の算出に用いた過去の10a当たり収量及び5中3平均値は、【統計表】【参考】各県の各年作況単収指数算出に必要な10a当たり収量データに記載している(以下同じ。)

◎県別累年データ（続き）

水稻の年次別推移（富山県）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況単収 指数 (生産者ふるい目幅)
		10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい上米))	10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	kg	
平成27年産	34,200	542	nc	185,400	559	nc	191,200	38,600	215,800	…
28	33,800	555	102	187,600	566	101	191,300	38,100	215,600	…
29	33,300	528	95	175,800	546	96	181,800	37,600	205,300	…
30	33,300	535	101	178,200	552	101	183,800	37,300	205,900	…
令和元	33,300	540	101	179,800	553	100	184,100	37,200	205,700	…
2	33,200	535	99	177,600	556	101	184,600	37,100	206,300	102
3	32,200	515	96	165,800	551	99	177,400	36,300	200,000	98
4	31,300	523	102	163,700	556	101	174,000	35,500	197,400	101
5	31,200	511	98	159,400	528	95	164,700	35,200	185,900	98
6	31,200	515	101	160,700	540	102	168,500	35,000	189,000	99
7 (概数値)	33,700	512	99	172,500	547	101	184,300	35,600	194,700	99

注：生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産～令和元年産は1.85mm、令和2年産～7年産で1.90mm。

水稻の年次別推移（石川県）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況単収 指数 (生産者ふるい目幅)
		10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	kg	
平成27年産	23,600	509	nc	120,100	522	nc	123,200	26,100	136,200	…
28	23,200	525	103	121,800	534	102	123,900	25,600	136,700	…
29	23,200	504	96	116,900	519	97	120,400	25,300	131,300	…
30	23,200	507	101	117,600	519	100	120,400	25,100	130,300	…
令和元	22,700	515	102	116,900	532	103	120,800	25,000	133,000	…
2	22,600	515	100	116,400	530	100	119,800	24,800	131,400	101
3	21,400	512	99	109,600	527	99	112,800	23,800	125,400	100
4	20,700	515	101	106,600	532	101	110,100	23,100	122,900	101
5	20,800	508	99	105,700	518	97	107,700	23,400	121,200	99
6	21,200	495	97	104,900	521	101	110,500	22,300	116,200	99
7 (概数値)	22,100	507	102	112,000	532	102	117,600	22,900	121,800	101

注：生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産～令和5年産は1.85mm、令和6年産～7年産は1.90mm。

水稻の年次別推移（福井県）

年 産	作付面積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別			ふるい目幅 1.70mmで選別			作付面積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況単収 指数 (生産者ふるい目幅)
		10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当たり 収量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	kg	
平成27年産	23,900	495	nc	118,300	518	nc	123,800	25,600	132,600	…
28	23,600	518	105	122,200	535	103	126,300	25,100	134,300	…
29	23,300	503	97	117,200	525	98	122,300	24,900	130,700	…
30	23,600	503	100	118,700	530	101	125,100	25,000	132,500	…
令和元	23,600	497	99	117,300	520	98	122,700	25,100	130,500	…
2	23,300	482	97	112,300	518	100	120,700	25,100	130,000	99
3	22,500	478	99	107,600	515	99	115,900	24,500	126,200	98
4	21,600	481	101	103,900	515	100	111,200	23,500	121,000	100
5	21,500	475	99	102,100	500	97	107,500	23,300	116,500	99
6	21,900	494	104	108,200	531	106	116,300	23,500	124,800	103
7 (概数値)	23,300	496	100	115,600	532	100	124,000	24,500	130,300	103

注：生産者が使用しているふるい目幅は平成27年産～令和元年産は1.85mm、令和2年産～7年産は1.90mm。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（主食用）

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（主食用）の概数値を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（北陸）

単位：％

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
令和 2 年産	100.0	0.5	1.0	1.3	2.1	12.0	83.1
3	100.0	0.9	1.4	1.6	3.1	16.1	76.9
4	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
5	100.0	0.4	0.6	0.9	1.9	10.1	86.1
6	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
7（概数値）	100.0	0.8	1.1	1.4	2.6	12.4	81.7
対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.8	1.4

注：ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅毎の玄米の重量割合である(以下同じ。)

表 2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（北陸）

年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和 2 年産	10a 当たり収量	kg	550	547	542	535	523	457
	収穫量（主食用）	t	1,021,000	1,015,900	1,005,700	992,400	971,000	848,500
3	10a 当たり収量	kg	531	526	519	510	494	408
	収穫量（主食用）	t	944,600	936,100	922,900	907,800	878,500	726,400
4	10a 当たり収量	kg	541	536	530	522	508	437
	収穫量（主食用）	t	938,800	930,400	919,100	905,900	881,500	758,600
5	10a 当たり収量	kg	513	511	508	503	494	442
	収穫量（主食用）	t	894,000	890,400	885,100	877,000	860,000	769,700
6	10a 当たり収量	kg	535	530	523	515	500	430
	収穫量（主食用）	t	938,800	930,400	918,100	904,100	877,800	753,900
7 （概数値）	10a 当たり収量	kg	541	537	531	523	509	443
	収穫量（主食用）	t	1,015,000	1,006,000	994,900	981,300	956,000	831,100
	対前年比 （収穫量（主食用））	％	108	108	108	109	109	110

注：ふるい目幅別の収穫量（主食用）の北陸値は、県ごとの収穫量（主食用）の積上げである。

【調査結果】

1 北陸の令和7年産水稻の作付面積（子実用）は20万700ha（前年産に比べ3,700ha増加）となった。これは飼料用米、他作物等からの転換により増加したためである。

また、主食用作付面積は18万7,700ha（同1万1,900ha増加）となった。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

2 10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、おおむね天候に恵まれたことから、517kg（前年産に比べ7kg増加）と見込まれる。

これを県別にみると、新潟県は525kg（前年産に比べ10kg増加）、富山県は512kg（同3kg減少）、石川県は507kg（同12kg増加）、福井県は496kg（同2kg増加）と見込まれる。

3 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は97万300t（前年産に比べ7万4,300t増加）と見込まれる。また、ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は101万5,000t（同7万6,200t増加）と見込まれる。

4 ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（子実用）は、108万5,000t（前年産に比べ3万2,000t増加）と見込まれる。

5 生産者が使用しているふるい目幅の作況単収指数は101と見込まれる。

表3 令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（主食用）

区 分	作付面積（主食用）		生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較	10a当たり 予想収量			予想収穫量 （主食用（生産者 ふるい上米））			10a当たり 予想収量			予想収穫量 （主食用（生産者 ふるい下米含む））		
			実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較		実 数 ④	前年産との比較		実 数 ⑤=①×④	前年産との比較	
		対差		対差	対比		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	kg	kg	%	t	t		kg	kg	%	t	t	
北 陸	187,700	11,900	517	7	101	970,300	74,300		541	6	101	1,015,000	76,200	
新 潟 県	108,600	7,200	525	10	102	570,200	48,000		542	6	101	588,600	45,100	
富 山 県	33,700	2,500	512	△3	99	172,500	11,800		547	7	101	184,300	15,800	
石 川 県	22,100	900	507	12	102	112,000	7,100		532	11	102	117,600	7,100	
福 井 県	23,300	1,400	496	2	100	115,600	7,400		532	1	100	124,000	7,700	

注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 予想収穫量については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表4 令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（子実用）

区 分	作付面積（子実用）		ふるい目幅1.70mmで選別					
	実 数 ①	前年産との比較	10a当たり 予想収量			予想収穫量 （子実用）		
			実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較	
		対差		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	kg	kg	%	t	t	
北 陸	200,700	3,700	541	6	101	1,085,000	32,000	
新 潟 県	117,700	1,500	542	6	101	637,900	15,100	
富 山 県	35,600	600	547	7	101	194,700	5,700	
石 川 県	22,900	600	532	11	102	121,800	5,600	
福 井 県	24,500	1,000	532	1	100	130,300	5,500	

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 予想収穫量については県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表 5 令和 7 年産水稻の主な収量構成素

区 分	主な収量構成要素（前年比較）							
	1㎡当たり 穂数の多少		1穂当たり もみ数の多少		1㎡当たり 全もみ数の多少		千もみ当たり 収量の多少 （登熟）	
	本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値	本年	前年値
	本 本		粒 粒		100粒 100粒		g g	
北 陸	前年並み	371	やや多い	77.6	やや多い	288	前年並み	18.2
新 潟 県	やや少ない	365	やや多い	79.2	前年並み	289	前年並み	18.3
富 山 県	やや多い	365	やや多い	74.8	多い	273	少ない	19.3
石 川 県	前年並み	386	やや多い	75.4	前年並み	291	前年並み	17.5
福 井 県	前年並み	397	前年並み	75.8	前年並み	301	前年並み	16.8

注： 主な収量構成要素の前年比較区分は、「多い」が対前年比106%以上、「やや多い」が105～102%、「前年並み」が101～99%、「やや少ない」が98～95%、「少ない」が94%以下に相当する。

表 6 令和 7 年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況（10 月 25 日現在）

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.4	2.6	12.4	81.7
	前年値	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.8	1.4
新 潟 県	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.4	2.5	12.3	81.9
	前年値	100.0	1.0	1.4	1.6	3.1	13.9	79.0
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.6	△ 1.6	2.9
富 山 県	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.7	3.2	13.3	79.9
	前年値	100.0	0.6	0.9	1.2	2.0	10.4	84.9
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.5	1.2	2.9	△ 5.0
石 川 県	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.1	2.0	10.5	84.8
	前年値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	12.3	82.7
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 1.8	2.1
福 井 県	重量割合	100.0	1.0	1.4	1.6	3.0	13.1	79.9
	前年値	100.0	0.8	1.4	1.7	3.0	15.1	78.0
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	0.0	△ 0.1	0.0	△ 2.0	1.9

表 7 令和 7 年産水稻の玄米品位の状況（北陸）

単位：%

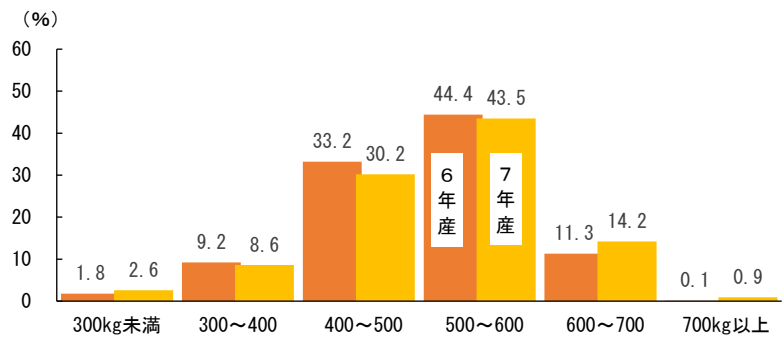
区分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
北 陸	3.0	0.2	1.2	0.1

注： 1 水稻作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものである。
2 白未熟粒は、乳白粒と背腹白粒の合計である。

図 2 令和 7 年産水稻の作況標本筆の 10 a 当たり収量の分布状況（北陸）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

（10 月 25 日現在）



【管内各県の調査結果】

(生産者が使用しているふるい目幅ベース、前年産比較)

1 新潟県

- (1) 水稻の作付面積(子実用)は11万7,700ha(前年産に比べ1,500ha増加)となった。これは、飼料用米等からの転換により増加したためである。

このうち、主食用作付面積は10万8,600ha(同7,200ha増加)となった。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

- (2) 10a 当たり予想収量は525kg(前年産に比べ10kg増加)と見込まれる。

穂数は5月中旬から6月中旬までの日照時間が前年を下回ったことから、「やや少ない」となった。1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから「やや多い」となり、全もみ数は「前年並み」となった。

千もみ当たり収量(登熟)は、8月中旬以降の気温、日照が確保され「前年並み」となった。

- (3) 予想収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は57万200t(前年産に比べ4万8,000t増加)と見込まれる。

また、予想収穫量(主食用(生産者ふるい下米含む))は58万8,600t(同4万5,100t増加)と見込まれる。

- (4) ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量(子実用)は63万7,900t(前年産に比べ1万5,100t増加)と見込まれる。

- (5) 生産者が使用しているふるい目幅の作況単収指数は102と見込まれる。

図3

新潟県の作柄表示地帯別

10a 当たり予想収量(10月25日現在)

(生産者が使用しているふるい目幅ベース)

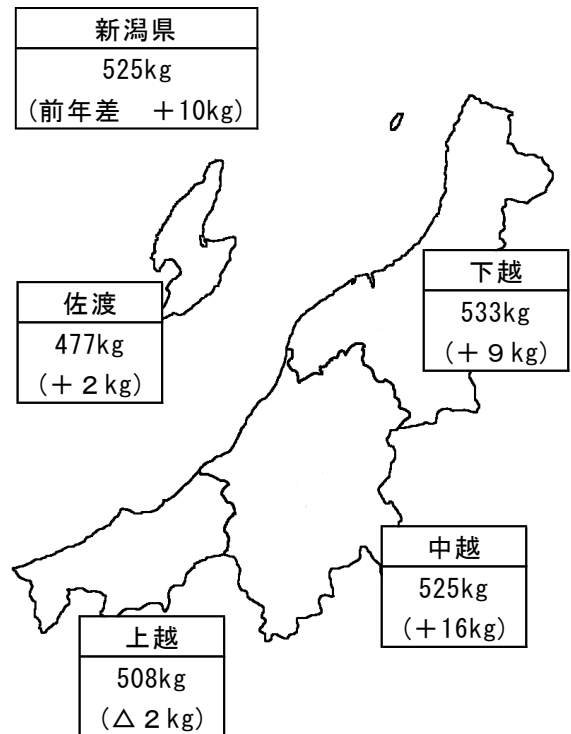
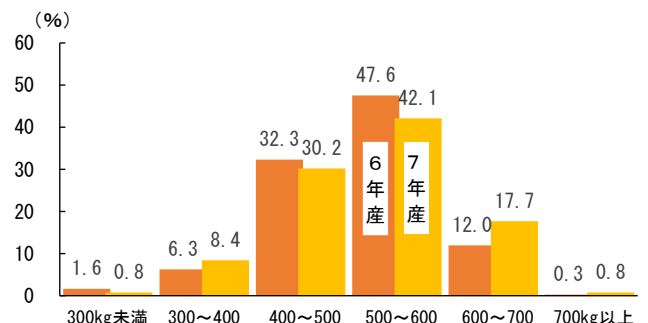


図4

作況標本筆の10a 当たり収量分布状況(新潟県)

(生産者が使用しているふるい目幅ベース)

(10月25日現在)



2 富山県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は3万5,600ha（前年産に比べ600ha増加）となった。これは飼料用米、他作物等からの転換により増加したためである。

このうち、主食用作付面積は3万3,700ha（同2,500ha増加）となった。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

- (2) 10a 当たり予想収量は512kg（前年産に比べ3kg減少）と見込まれる。

穂数は、5月中旬、6月上旬の気温及び6月下旬以降の日照時間が前年を上回ったことにより、前年産に比べ「やや多い」となった。1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから、「やや多い」となり、全もみ数は「多い」となった。

千もみ当たり収量（登熟）は、全もみ数が前年産に比べ多いことによる相反作用から、前年産に比べ「少ない」となった。

- (3) 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は17万2,500t（前年産に比べ1万1,800t増加）と見込まれる。

また、予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は18万4,300t（同1万5,800t増加）と見込まれる。

- (4) ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（子実用）は19万4,700t（前年産に比べ5,700t増加）と見込まれる。

- (5) 生産者が使用しているふるい目幅の作況単収指数は99と見込まれる。

図5

富山県の10a 当たり予想収量
（10月25日現在）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

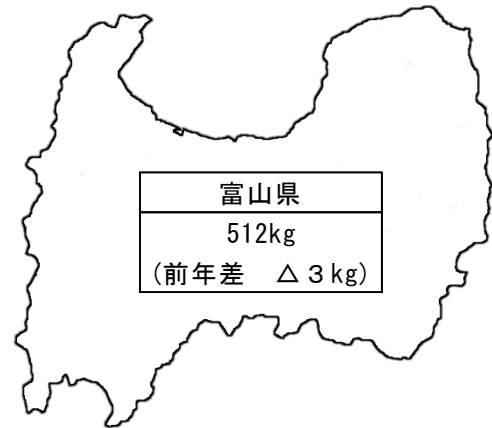
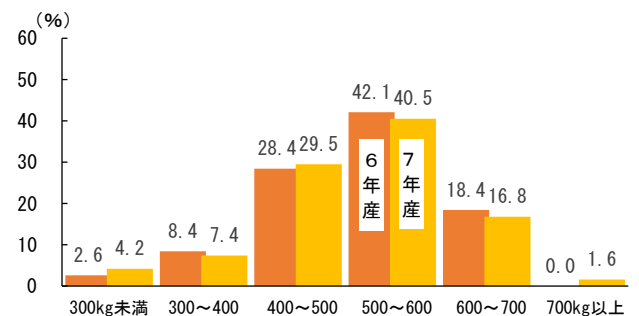


図6

作況標本筆の10a 当たり収量分布状況（富山県）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

（10月25日現在）



3 石川県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は2万2,900ha（前年産に比べ600ha増加）となった。これは飼料用米、他作物等からの転換により増加したためである。

このうち、主食用作付面積は2万2,100ha（同900ha増加）となった。これは、飼料用米や他作物等からの転換により増加したためである。

- (2) 10a 当たり予想収量は507kg（前年産に比べ12kg増加）と見込まれる。

穂数は「前年並み」で、1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから、前年産に比べ「やや多い」となり、全もみ数は「前年並み」となった。

千もみ当たり収量（登熟）は、8月中旬以降の気温、日照が確保され「前年並み」となった。

- (3) 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は11万2,000t（前年産に比べ7,100t増加）と見込まれる。また、予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は11万7,600t（同7,100t増加）と見込まれる。

- (4) ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（子実用）は12万1,800t（前年産に比べ5,600t増加）と見込まれる。

- (5) 生産者が使用しているふるい目幅の作況単収指数は101と見込まれる。

図7

石川県の作柄表示地帯別

10a 当たり予想収量（10月25日現在）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

石川県
507kg
（前年差 +12kg）

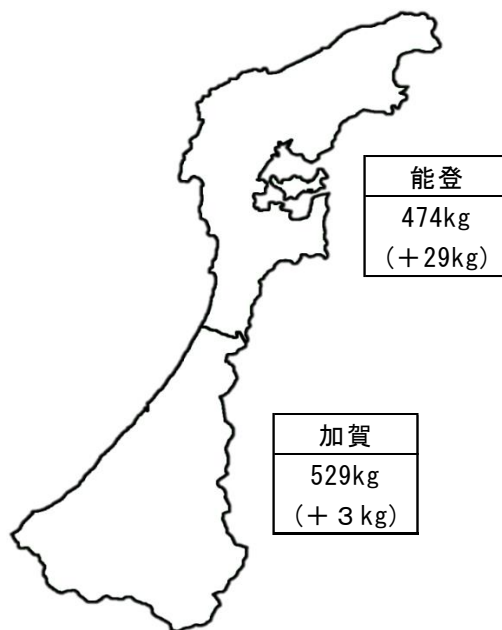
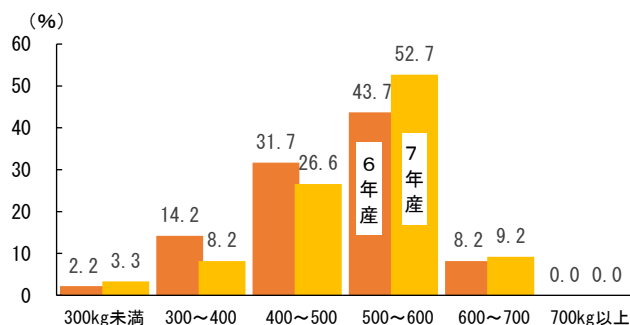


図8

作況標本筆の10a 当たり収量分布状況（石川県）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

（10月25日現在）



4 福井県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は2万4,500ha（前年産に比べ1,000ha増加）となった。これは飼料用米、他作物等からの転換により増加したためである。

このうち、主食用作付面積は2万3,300ha（同1,400ha増加）となった。これは備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したためである。

- (2) 10a 当たり予想収量は496kg（前年産に比べ2kg増加）と見込まれる。

穂数、1穂当たりもみ数ともに「前年並み」となったことから、全もみ数は「前年並み」となった。

千もみ当たり収量（登熟）は、8月中旬以降の気温、日照が確保され「前年並み」となった。

- (3) 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は11万5,600t（前年産に比べ7,400t増加）と見込まれる。また、予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は12万4,000t（同7,700t増加）と見込まれる。

- (4) ふるい目幅1.70mmで選別した予想収穫量（子実用）は13万300t（前年産に比べ5,500t増加）と見込まれる。

- (5) 生産者が使用しているふるい目幅の作況単収指数は103と見込まれる。

図 9

福井県の作柄表示地帯別

10a 当たり予想収量（10月25日現在）

（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

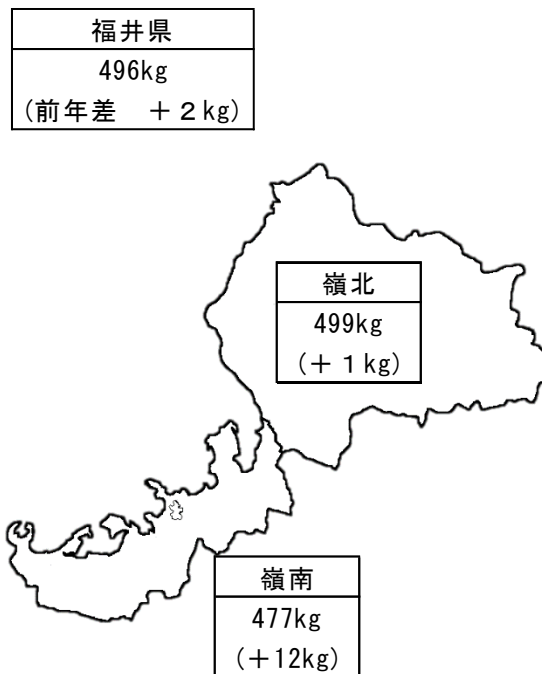
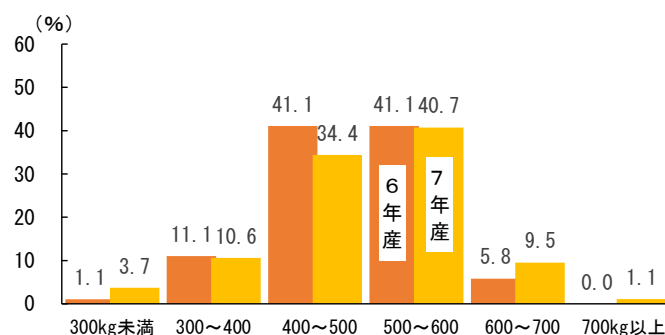


図 10

作況標本筆の10a 当たり収量分布状況（福井県）

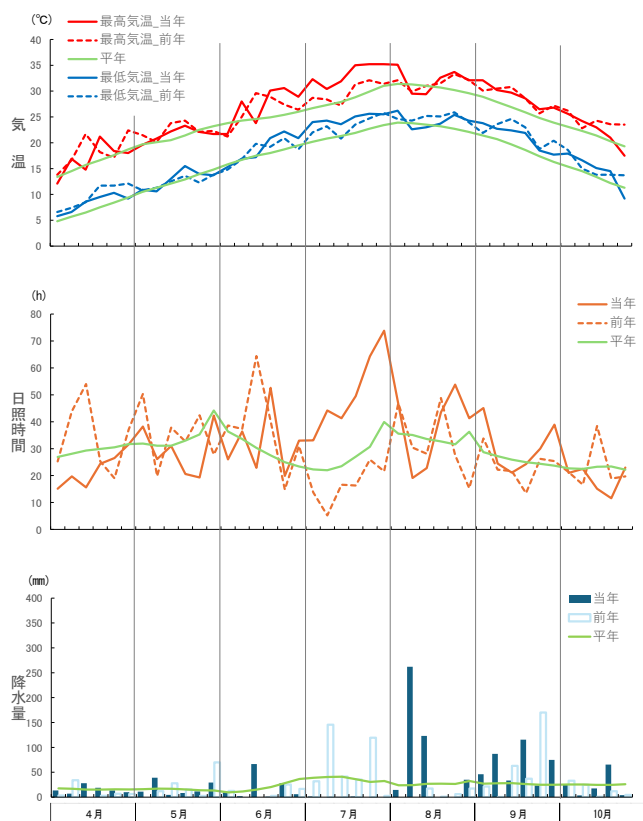
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

（10月25日現在）

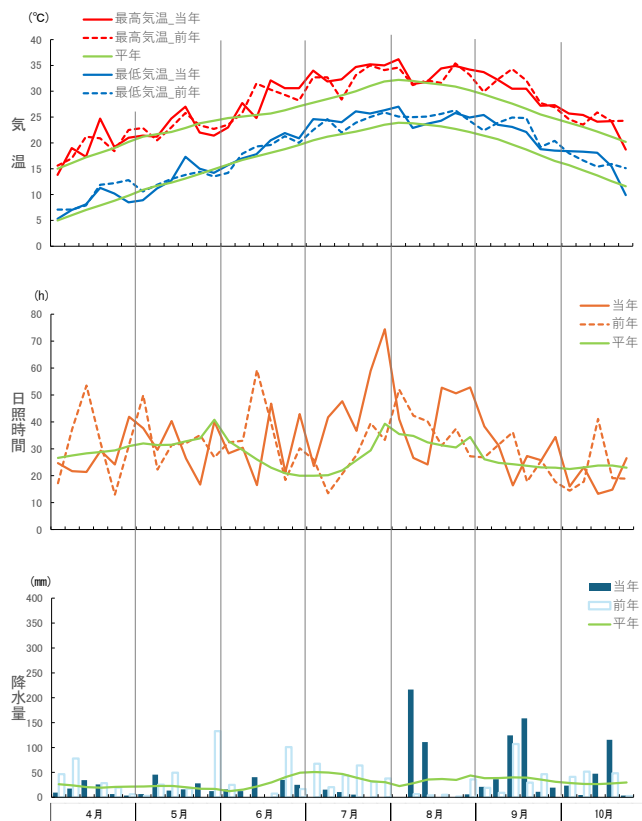


◎関連データ 令和7年アメダス半旬別気象グラフ

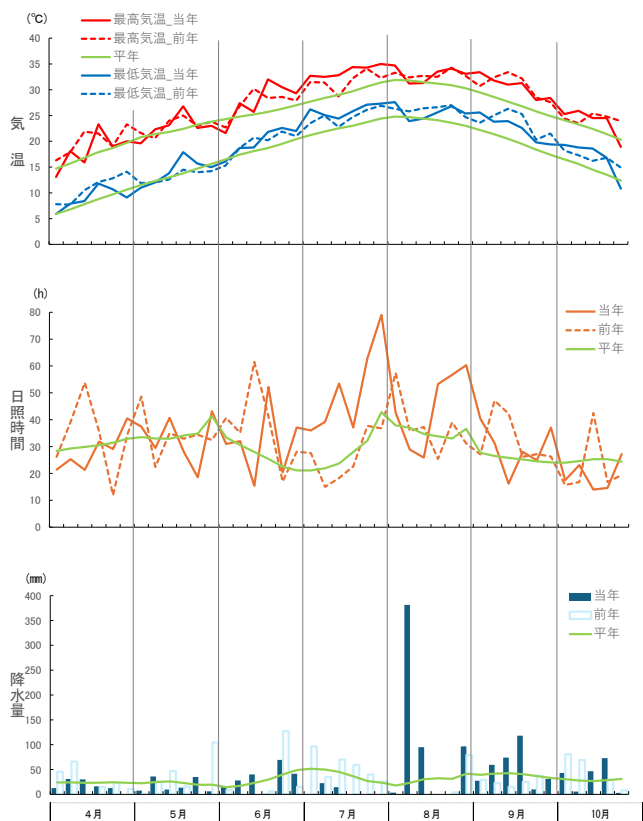
1 新潟



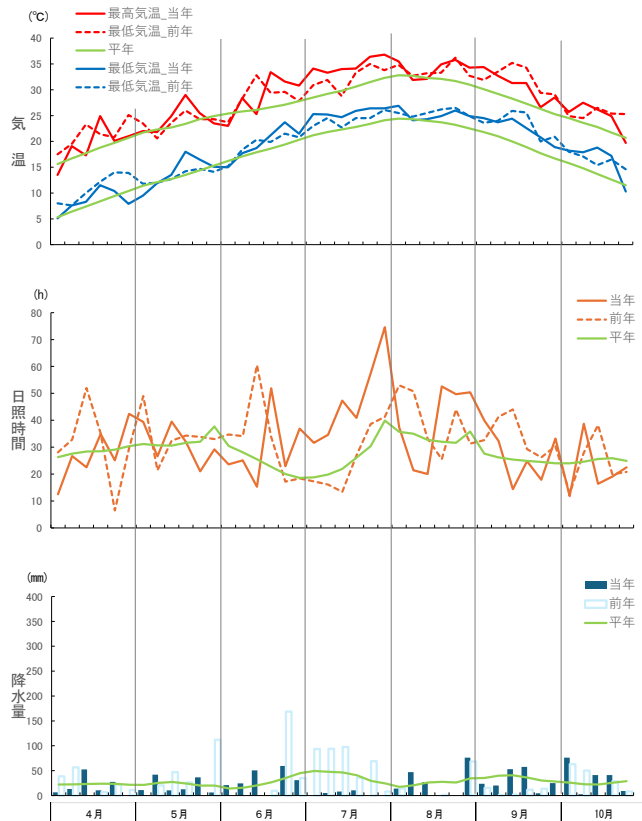
2 富山



3 金沢

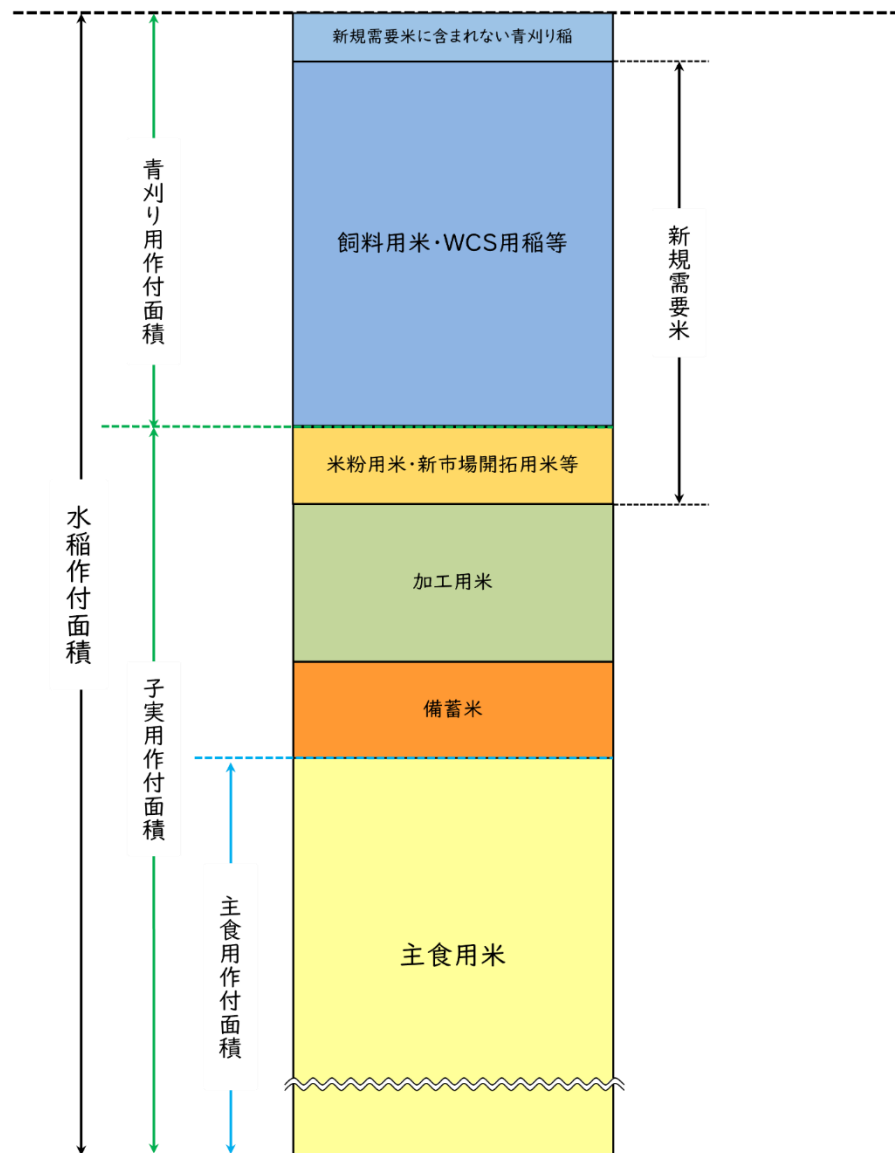


4 福井

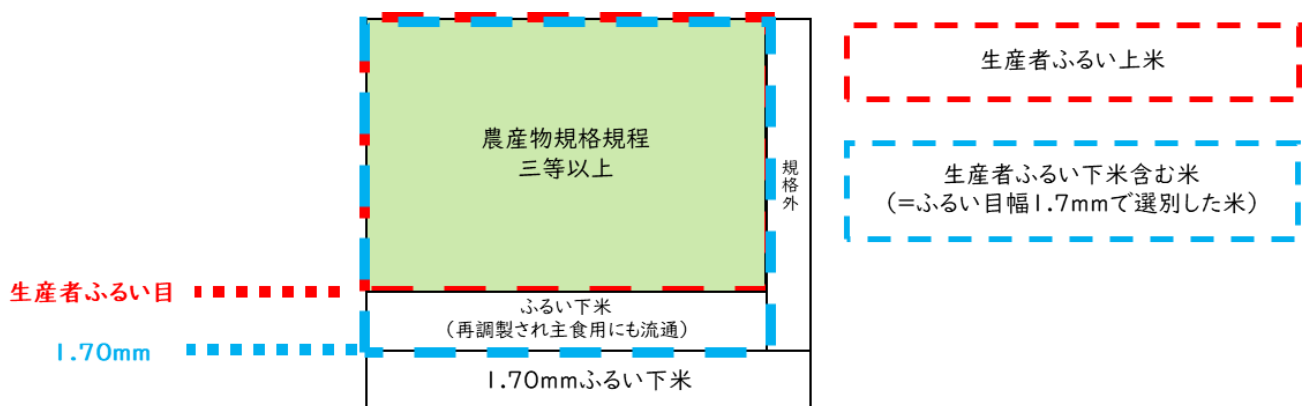


【参考 1】

I 水稻作付面積の概念図



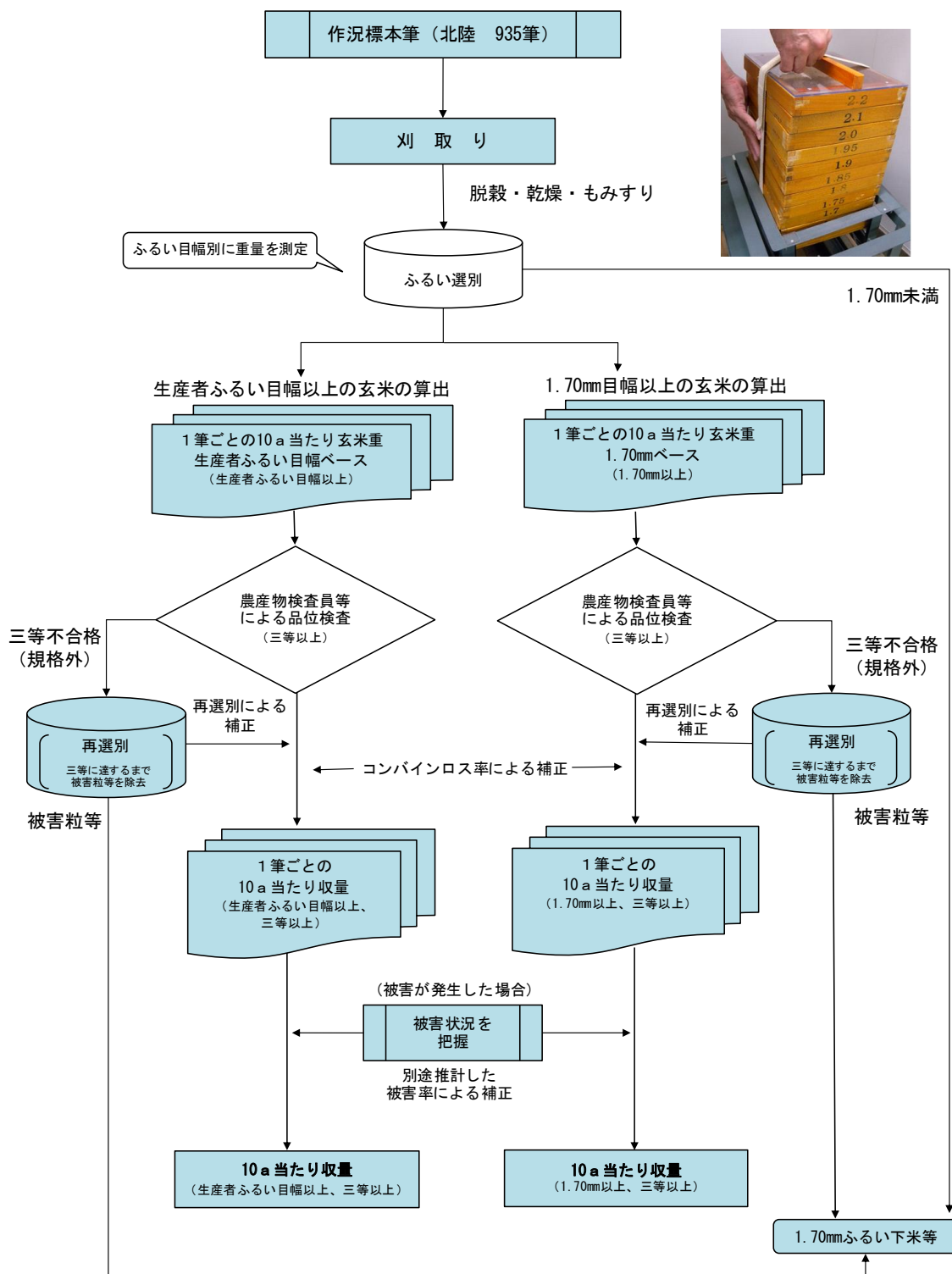
II 10a 当たり収量及び収穫量の概念図



【参考2】

刈取り調査における10a当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い10a当たり収量を算出している（下図参照）。

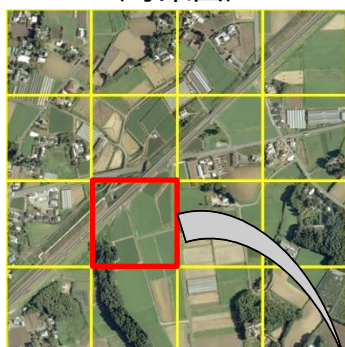


【参考3】

作況^{ふで}標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北陸で935筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



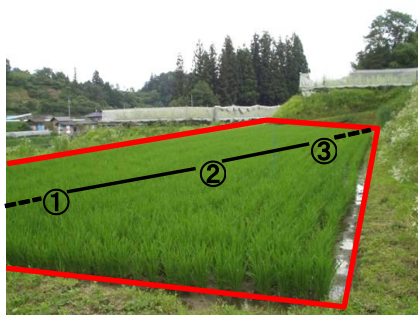
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m 四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北陸で935 筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/xlsx/suitou_20251025.xlsx

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 全国版は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y4

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和8年2月予定）します。
- ・ 次回（収穫期）の公表は、令和7年12月上旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部
生産流通消費統計課

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3642
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）
電 話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）
電 話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）
電 話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）
電 話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部
統計企画課 企画係

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3622
（直通）076-232-4892



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>

